

「同じ釜の飯を食った仲間」

- 先月の末に、毎年恒例の宿泊訓練「紀美野町合宿」があり、5年生の子どもたちと一緒に行ってきました。
- ちょうど、台風21号と22号の間の2日間の晴れ間にあたったのは幸運でした。本来なら山に入って立木の伐採を計画していたのが、斜面がぬかるんで危険とのことで急遽用意してくれた「丸太切り体験」に変更はしたものの、ほぼ予定通りでした。宿泊先の「未来塾」の所長さんによると「飯盒炊さん場」は数日前、雨水が溢れてかまどが全然見えない状態だったそう。2日目の活動の「クラフト作り」の焼板の準備でさえ雨続きでなかなかできず、かろうじて間に合ったということでした。
- 出発前には、私から「自分の両隣の人が楽しい合宿となるように、先に譲ってあげたり、手伝ってあげたり、応援してあげましょう。そうすると実は自分もそうしてもらえるはずですよ。」と話しました。いわゆる「ペイ・フォワード」の考えです。もちろん担任の先生たちは、日頃からそういった投げかけをしているので、この合宿で本校の5年生は、実にすてきな姿を何度も見せてくれました。
- その所長さんは、「貴志南の子どもたちって、本当にひたむきに取り組みますねえ。仲いいですねえ。これまで見た団体の100倍すごい。きっと先生方の指導や接し方の賜物なのでしょうね。」とあまりにほめてくださるので、つい「はい、自慢の子どもたちです！」と答えた次第です。
- 今年は、5年生の社会科学習の林業の体験的学習を行う「森林教室」と「合宿訓練」を兼ねて行ってみました。
- 長年、和歌山市の小学生が利用してきた「和歌山市立少年自然の家」、いわゆる「加太少年自然の家」は昨年本校が利用した後の夏休みで閉鎖し取り壊しました。築40年を超え、老朽化しており、耐震面からも心配なためでした。多くの保護者の方々や若い先生たちも子ども時代に利用した経験がある施設です。取り壊し決定当時、市では建て替えを行わない意見もあったそうですが、教育関係者等の熱い要望で写真のようなイメージの「青少年国際交流センター(仮称)」が来年度中に完成する予定です。
- 「同じ釜の飯を食った仲間」を、5年生になるごとに今後も育んでいきたいものです。

〈学校長〉

